
 学 会 記 事

第 258 回新潟外科集談会

日 時 平成 16 年 5 月 8 日 (土)
午後 1 時 30 分～午後 4 時 15 分
会 場 新潟大学医学部
有壬記念館

一 般 演 題

1 消化管手術における手術部位感染 (SSI) 予防対策の効果

鈴木 聡・三科 武・大滝 雅博
早見 守仁・平野謙一郎・中野 雅人
松原 要一

鶴岡市立荘内病院外科

手術部位感染 (SSI) を予防する目的で、閉創前の皮下組織をスポンジで擦りながら生食水で洗浄する方法 (スポ洗) が、SSI 予防対策として有用か検討した。03 年 4 月からスポ洗を行った消化管手術 52 例と 1 年前の手術でスポ洗なしの 69 例とを SSI の発症率で比較検討した。SSI はスポ洗なし症例 69 例中の 33.3 % に認め、スポ洗ありでは 52 例中 15.4 % で、スポ洗により SSI は有意に減少した。下部消化管手術では、スポ洗なしの感染率 48.3 % に対し、スポ洗ありでは 22.6 % と有意に低率であった。一方周術期の抗菌剤の予防的投与日数は、スポ洗なしの平均 7 日に比べ、スポ洗ありでは 4 日と短い傾向にあった。以上から、スポ洗は SSI 予防対策上極めて有効な方法と考えられた。

2 虚血性心疾患併存胃癌に対する胃切除例の実態と予後について

池田 義之・大橋 学・中川 悟
神田 達夫・畠山 勝義
新潟大学大学院消化器・一般外科学分野

狭心症 (17 例)、心筋梗塞 (8 例) 併存胃癌 (早期 14 例、進行 11 例) に対する胃切除例の実態と予後を検討した。NYHA Class I 16 例、Class II 9 例で、Modified Cardiac Risk Index は全例 Class I であった。虚血性心疾患の既往により縮小手術にとどめることはなく、術中血圧低下 (1 例)、術後狭心症発作 (2 例) がみられたが、周術期の心不全や心筋梗塞はみられなかった。5 年生存率は 67.1 % (早期癌例では 91.7 %) で、虚血性心疾患による死亡は経験しなかった。術前評価で心機能が保たれている虚血性心疾患併存胃癌の手術は、周術期の厳重な管理で安全性が確保された。術後の予後に虚血性心疾患の影響はなく、胃癌に対しては根治性を落とすことなく手術すべきである。

3 当院における癌化学療法サポートチームの取り組み

宗岡 克樹・藤村 夏美*・石月 臣**
高島 葉子**・稲田百合子**
横見 久子**・古谷勢津子**
新津医療センター病院外科
同 内科*
同 看護部**

当院では大腸癌術後再発症例を中心として PMC 療法および時間治療を外来で施行している。PMC 療法開始後 2 年 6 ヶ月で 35 例を経験した。その 35 例の中には治療抵抗性となり、末期状態になる患者も存在する。末期状態の患者は入退院を繰り返すことが多く、治療・看護・介護の継続が重要になる。その多様なニーズにこたえることを目的に院内に癌化学療法サポートチーム (CST) を立ち上げ、cure と care の継続を目指している。CST の構成は治療レジメンを決定する医師 2 名、看護婦 8 名、薬剤部 2 名、医事課 1 名、庶務 1 名